

2013年3月期

決算説明会資料

代表取締役社長 秋沢英海

ウイン・パートナーズ株式会社
WIN-Partners Co., Ltd.



証券コード:3183



会社概要	5
基本方針	6
事業概要	8
グループ成長戦略	13
2. ウイン・インターナショナル 決算概要	15
2013年3月期実績	16
決算のポイント	18
3. ウイン・パートナーズ 業績予想	25
2014年3月期予想	26
業績予想のポイント	27
配当方針	30
4. 参考資料	31

1. ウィン・パートナーズ 会社概要

ウイン・パートナーズ発足（ジャスダック3183）

2013年4月1日

医療機器商社、ウイン・インターナショナルとテスコが経営統合
持株会社ウイン・パートナーズ発足

ウイン・パートナーズ株式会社

株式会社ウイン・インターナショナル
 WIN INTERNATIONAL CO., LTD



テスコ株式会社

1983年

創業

1973年

医療機器販売

主な事業内容

医療機器販売

首都圏

主要地域

宮城県、福島県

証券コード：3183 JASDAQ(スタンダード)

本社：東京都台東区台東四丁目24番8号

資本金：5億5千万円

事業内容：医療機器販売等を行うグループ企業の経営管理

代表者及び役員構成：代表取締役社長 秋沢 英海
他、取締役 4名(うち、社外取締役 1名)
監査役 3名(うち、社外監査役 2名)

100%連結子会社：(株)ウイン・インターナショナル、テスコ(株)

グループ従業員数：352名(2013年4月1日現在)

発行済株式数：14,354,222株(自己株式を除く)

企業理念

- すべての人にベター・クオリティ・オブ・ライフを提供し、豊かな社会の実現に貢献します

企業ビジョン

- 新しいニーズを創造し、次世代医療関連ビジネスのリーディングカンパニーを目指します

当グループは、当社及び連結子会社2社からスタートします

当社の理念に共感いただける企業を今後もパートナーとして迎え入れ、企業価値の拡大を図ります



幸せの象徴、青い鳥が向かい合ってつくる「W」

それは私たちの頭文字であり、企業や人とのパートナーシップを表します

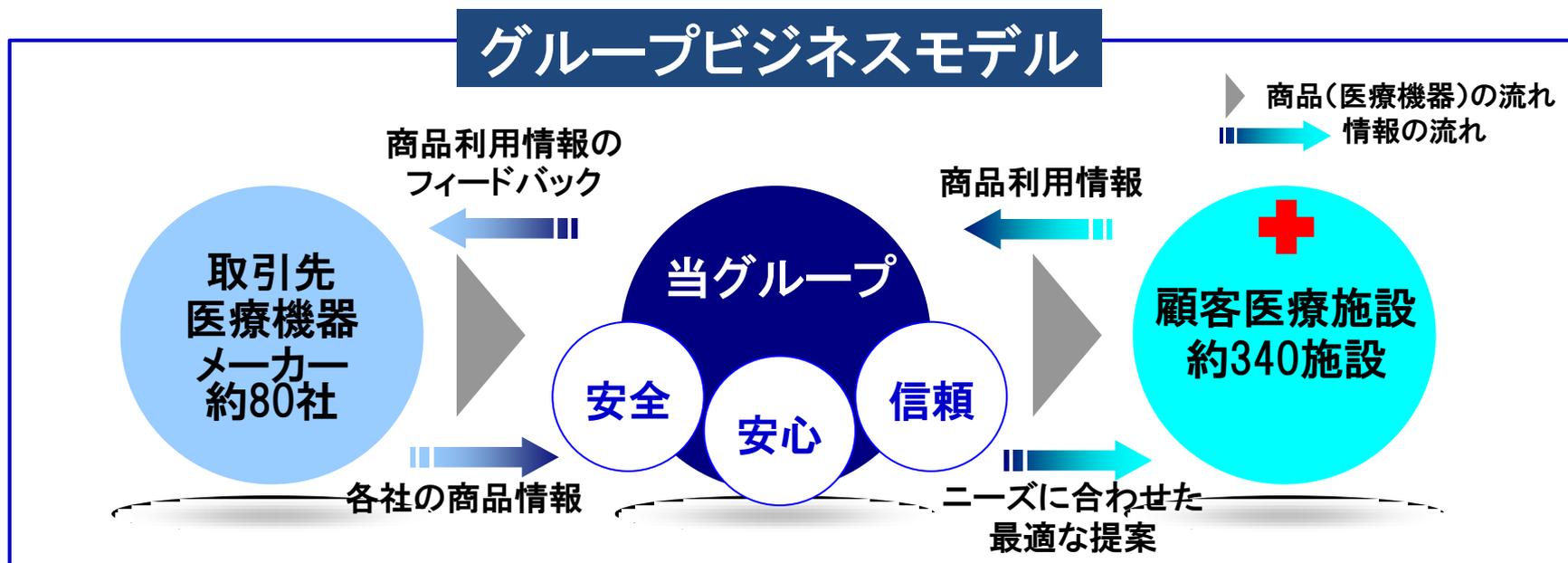
三角形の組み合わせは、より良い社会に向けて自在に形を変え、進化しながら
高みを目指す私たちの企業姿勢を伝えます

すべての人にベター・クオリティ・オブ・ライフ

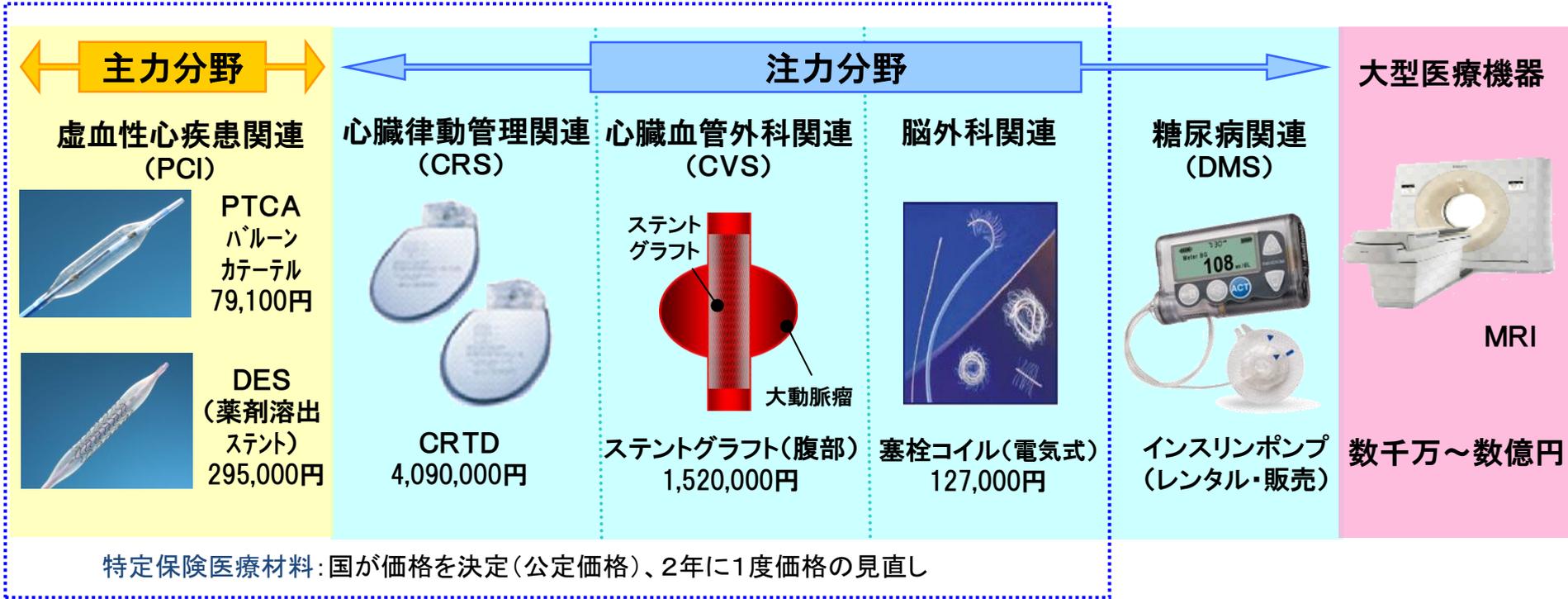
・循環器系の低侵襲治療分野に特化

- ⇒ 高度な商品知識とサービスの提供
- ⇒ 医療施設の高度医療化をサポート、現場のニーズに合った提案型の営業体制
- ⇒ 顧客は有力医療施設

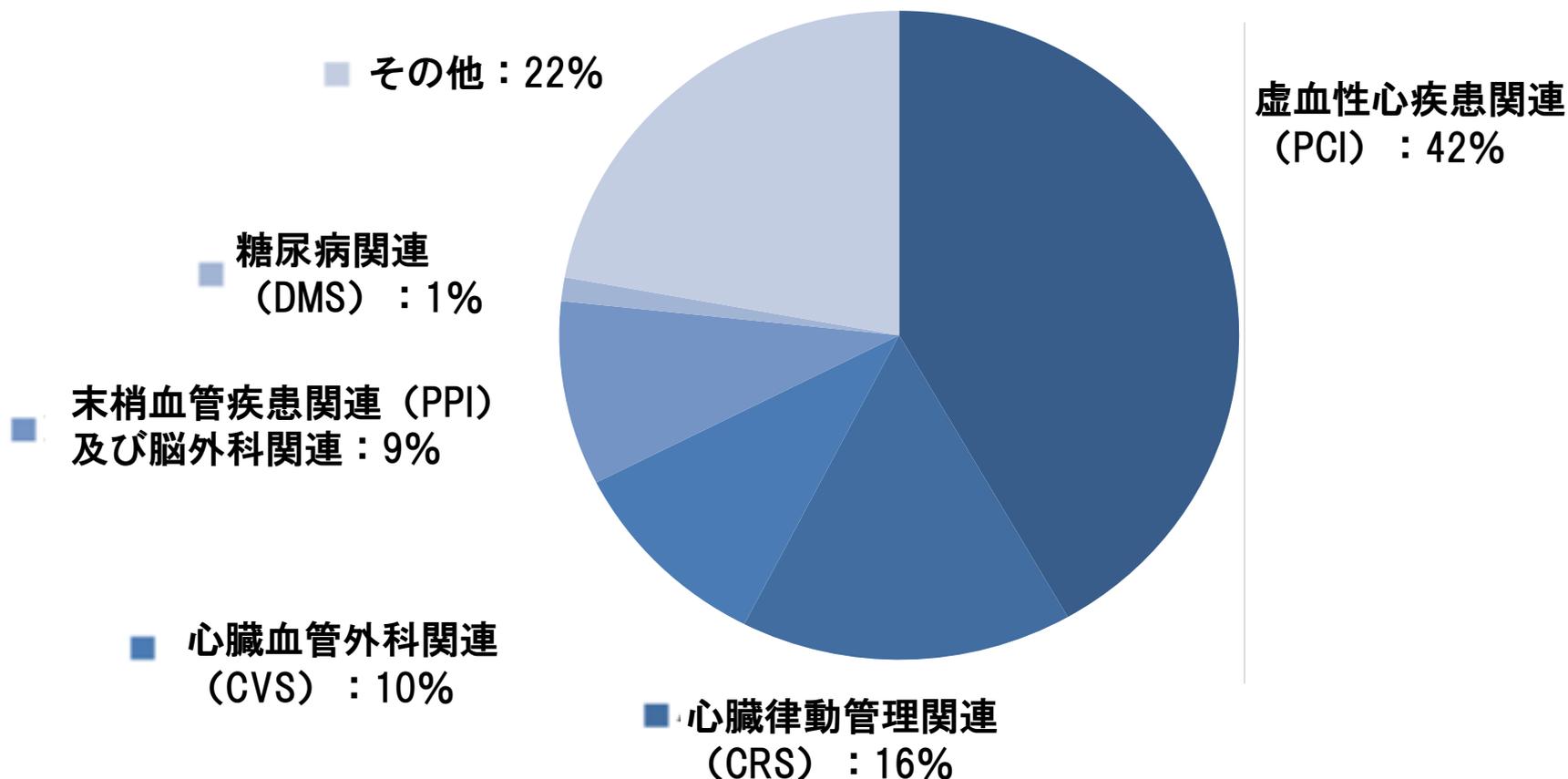
・心臓カテーテルでトップシェア



低侵襲治療、心臓治療の医療機器が主軸



2013年3月期グループ売上構成比



注: テスコ社が10ヶ月の変則決算の為、12ヶ月換算し、上記数値を算出。

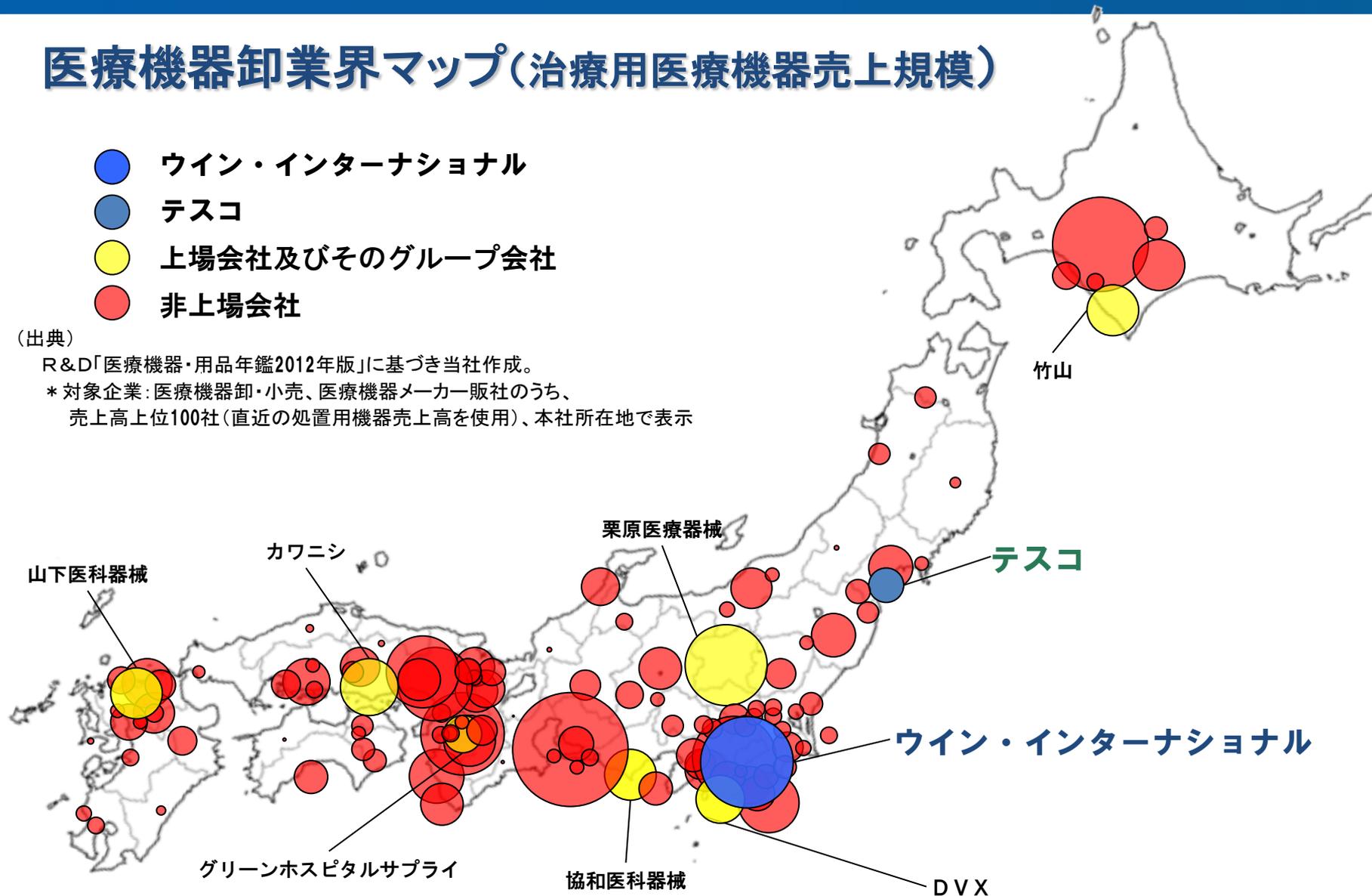
医療機器卸業界マップ(治療用医療機器売上規模)

- ウイン・インターナショナル
- テスコ
- 上場会社及びそのグループ会社
- 非上場会社

(出典)

R&D「医療機器・用品年鑑2012年版」に基づき当社作成。

* 対象企業: 医療機器卸・小売、医療機器メーカー販社のうち、
売上高上位100社(直近の処置用機器売上高を使用)、本社所在地で表示



営業拠点ネットワーク

(医療機器販売事業)

＜エリアマネジメント＞
第一～六営業部
テスコ

+

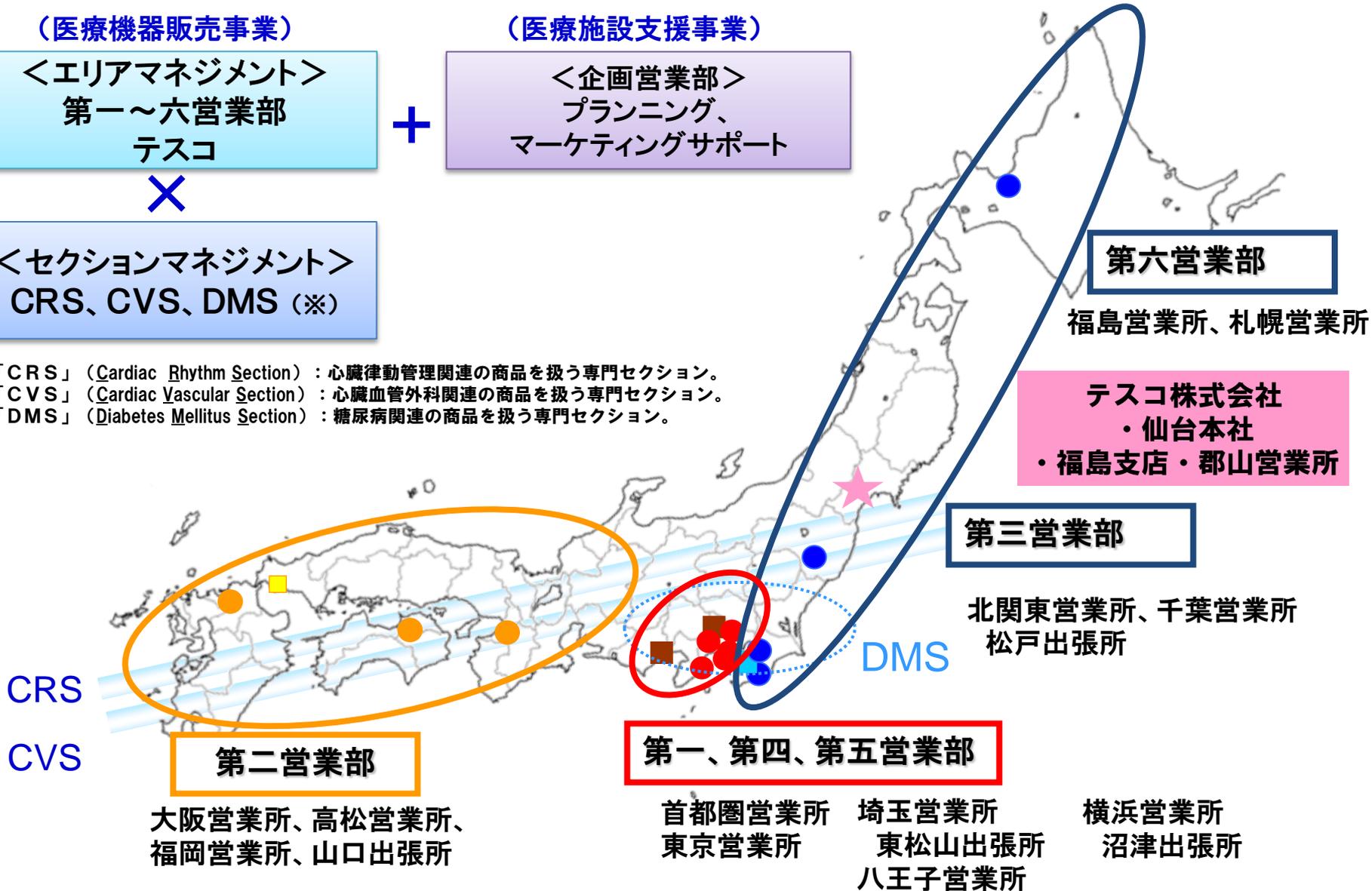
(医療施設支援事業)

＜企画営業部＞
プランニング、
マーケティングサポート

×

＜セクションマネジメント＞
CRS、CVS、DMS (※)

(※) 「CRS」 (Cardiac Rhythm Section) : 心臓律動管理関連の商品を扱う専門セクション。
「CVS」 (Cardiac Vascular Section) : 心臓血管外科関連の商品を扱う専門セクション。
「DMS」 (Diabetes Mellitus Section) : 糖尿病関連の商品を扱う専門セクション。



現在

将来

既存領域の深耕

- 循環器領域における成長
 - 新製品、高付加価値製品の提供
 - 新しい治療法の普及
- 低侵襲治療領域の拡大
 - 下肢、頭頸部、腹部への展開
 - 潜在患者の発掘
- 関連分野の拡大
 - 糖尿病関連事業の拡大
 - 合併症への対応、医療連携支援
 - 医療施設開業、運営支援

地域の拡大

- 東北地方の基盤確立、全国体制の構築
 - 地域の有力医療施設など新規顧客の獲得
 - 地域医療を担う企業との連合

事業領域の拡大

- 地理的拡大から、事業領域の拡大へ
 - 医療機器卸の枠を超えた周辺事業の取り込み
- 人々のクオリティ・オブ・ライフを高める医療ビジネスモデルの構築

M & A

グループ全体の効率化に取り組み、ROE15%以上を目指す

- **マーケットシェアの拡大による価格交渉力の向上**
- **医療機器メーカーに対する提案力の向上(商品開発、マーケティング戦略等)**
- **最先端医療機器の導入、豊富な品揃えによる顧客に対する対応力の向上**
- **グループ内の情報共有による新規顧客開拓**
- **グループ管理体制の最適化、ローコストオペレーションの推進**

2. ウィン・インターナショナル 決算概要

ウイン・インターナショナル：2013年3月期実績

	2012年3月期		2013年3月期			
	金額 (百万円)	百分比 (%)	期初予想 (百万円)	金額 (百万円)	百分比 (%)	前年同期比 (%)
売上高	32,957	100.0	34,049	33,912	100.0	+2.9
営業利益	1,648	5.0	1,652	1,557	4.6	▲ 5.5
経常利益	1,657	5.0	1,657	1,567	4.6	▲ 5.4
当期純利益	955	2.9	1,009	960	2.8	+0.5
1株当たり当期純利益(円)	78.23	—	82.74	78.68	—	+0.6
1株当たり純資産(円)	594.88	—	—	649.04	—	+9.1

下期は増収増益を達成するも、上期の減益を吸収できず

ウィン・インターナショナル：損益計算書

	2012年3月期		2013年3月期		
	金額(百万円)	百分比(%)	金額(百万円)	百分比(%)	前年同期比(%)
売上高	32,957	100.0	33,912	100.0	+2.9
売上原価	28,603	86.8	29,515	87.0	+3.2
売上総利益	4,354	13.2	4,397	13.0	+1.0
販売管理費	2,706	8.2	2,840	8.4	+4.9
営業利益	1,648	5.0	1,557	4.6	▲ 5.5
営業外収益	11	0.0	10	0.0	▲ 5.0
営業外費用	1	0.0	0	0.0	▲ 79.2
経常利益	1,657	5.0	1,567	4.6	▲ 5.4
特別利益	7	0.0	-	-	-
特別損失	7	0.0	1	0.0	▲ 84.4
税前利益	1,657	5.0	1,566	4.6	▲ 5.5
税金費用	702	2.1	606	1.8	▲ 13.7
当期純利益	955	2.9	960	2.8	+0.5

売上高 +2.9%

【マイナス要因】
償還価格の下落

【プラス要因】

新規取引先の獲得
主要顧客施設の症例数増
取引領域拡大
大型機器、設備の売上増

売上総利益率 ▲0.25pt

償還価格下落
PCI部門の減収

販管费率 +0.16pt

統合関連費用
人件費増

【決算のポイント】

(期初予想比) 売上高 ▲1.3億円、営業利益 ▲94.9百万円 → PCI部門の売上および利益の未達

(前期比) 売上高 +2.9% → 償還価格改定(9%のマイナス要因)を販売数量増で吸収

(前期比) 営業利益 ▲5.5% → 価格下落、PCI部門の減収による粗利益率の悪化

経費の増加 (経営統合費用 0.6億円、人件費1億円)

【主な取り組み】

■ 人員の強化(前期末比較:+18名)

*新規開設の出張所(山口、札幌)、強化エリア(四国)、成長分野のDMS(糖尿病関連)に人員を重点配置

■ 新製品の販売拡大

*MRI対応ペースメーカー(メドトロ_アドバイザーMRI)、末梢血管用DES等

■ 成功報酬プログラム等、メーカーとの条件交渉を推進

第4四半期の売上総利益は四半期ベースで過去最高を達成

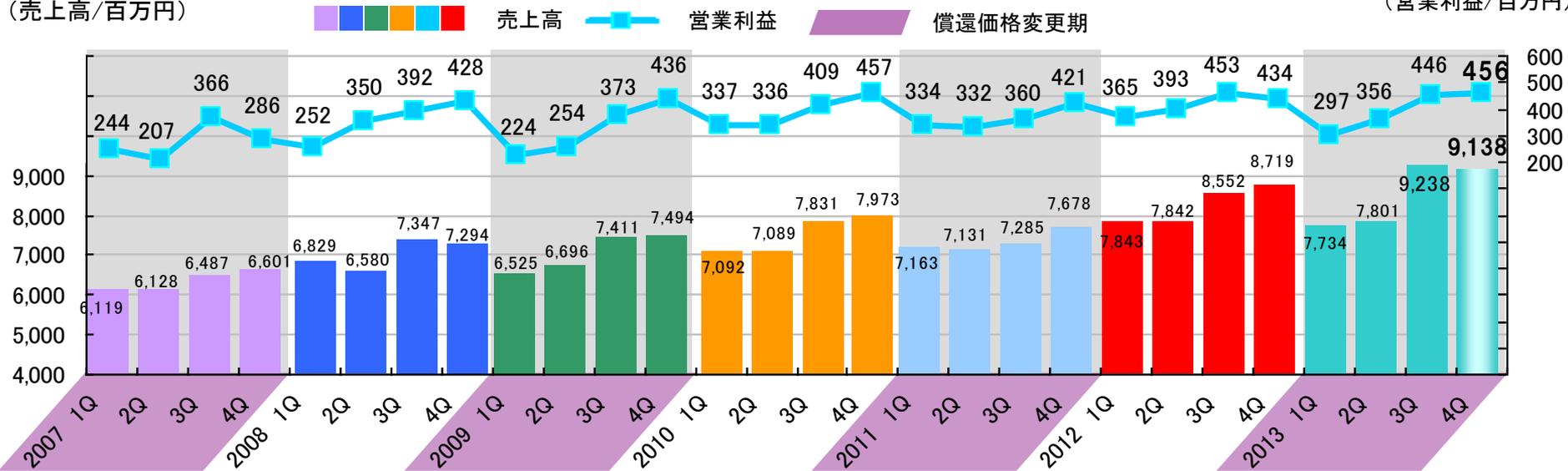
ウィン・インターナショナル：四半期業績推移



売上高／営業利益の推移(四半期)

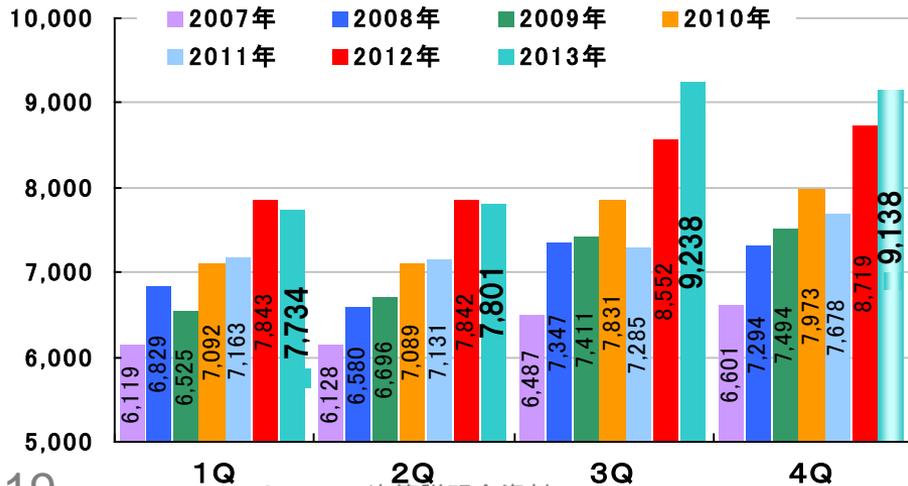
(売上高/百万円)

(営業利益/百万円)



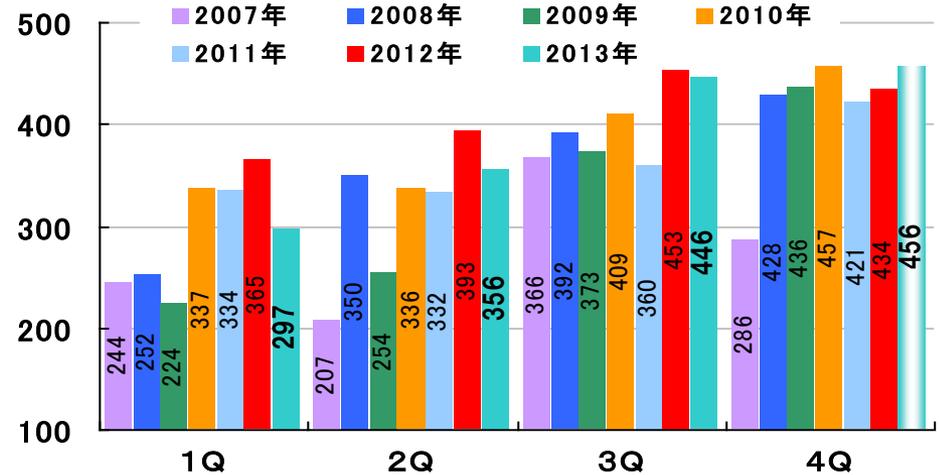
売上高の推移(四半期別)

(百万円)



営業利益の推移(四半期別)

(百万円)



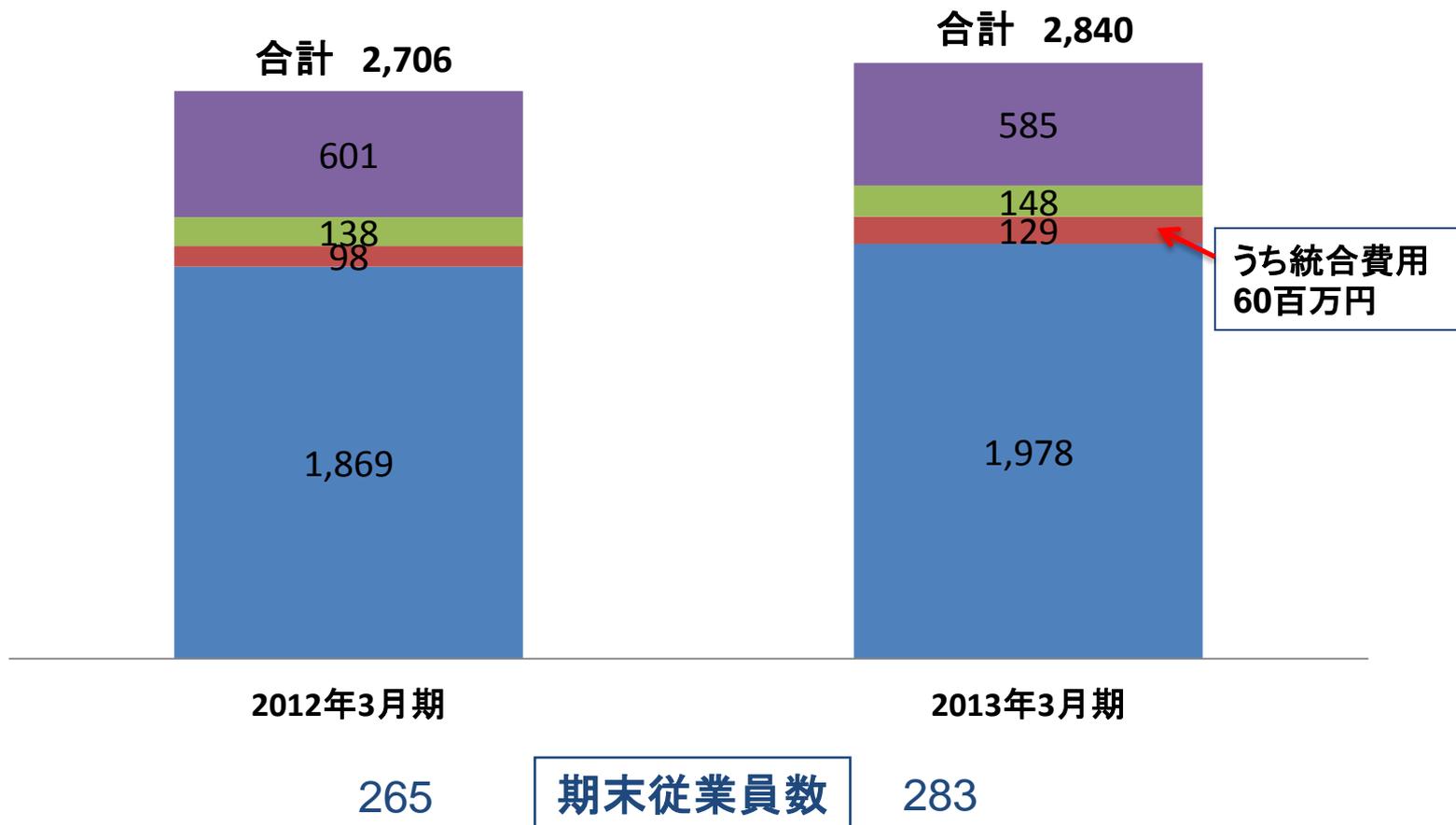
ウイン・インターナショナル：部門別売上高

2013年3月期 部門別売上高	売上高	売上高伸長率 (%)		構成比
	百万円	数量	金額	%
■ 虚血性心疾患関連(PCI)	15,229	+4.8	▲ 5.9	44.9
PTCAバルーンカテーテル	2,174	+9.1	▲ 10.3	6.4
DES(ドラッグエリューティングステント)	6,075	+10.6	▲ 5.3	17.9
IVUS(血管内超音波診断用カテーテル)	1,872	+5.1	▲ 5.8	5.5
その他PCI関連	5,108	+4.2	▲ 4.7	15.1
■ 心臓律動管理関連(CRS)	4,864	+19.2	+9.1	14.3
ペースメーカー関連	1,414	+0.1	▲ 10.2	4.2
ICD/CRT-D関連等(植込み型除細動器等)	1,411	+29.6	+26.6	4.2
EP・アブレーション関連 (電気生理検査用カテーテル・心筋焼灼術用カテーテル)	1,342	+24.7	+16.2	4.0
その他CRS関連	697	+15.2	+13.7	2.1
■ 心臓血管外科関連(CVS)	3,557	+5.3	+1.0	10.5
■ 末梢血管疾患関連(PPI)	1,820	+18.0	+11.5	5.4
■ 脳外科関連	882	+9.0	+7.8	2.6
■ 糖尿病関連(DMS)	498	—	+39.4	1.5
インスリンポンプ(数量は期末レンタル台数)	314	+31.8	+32.7	0.9
iPro2+CGMS-Gold	123	+107.1	+52.4	0.4
その他DMS関連	60	-	+52.7	0.2
■ その他	7,062	-	+18.0	20.8
■ 合計	33,912	-	+2.9	100.0

ウイン・インターナショナル：販管費の内訳

ウイン・インターナショナル 販管費(百万円)

■ 人件費 ■ 業務委託費 ■ 賃借料 ■ その他経費



ウイン・インターナショナル：貸借対照表

(単位:百万円、%)	2012年3月末		2013年3月末			(単位:百万円、%)	2012年3月末		2013年3月末		
	金額	構成比	金額	構成比	増減額		金額	構成比	金額	構成比	増減額
流動資産	14,865	89.6	16,062	87.2	+1,196	流動負債	9,146	55.1	10,274	55.8	+1,128
現金・預金	3,980	24.0	4,611	25.1	+630	仕入債務	8,315	50.1	9,568	52.0	+1,253
売上債権	9,833	59.3	10,043	54.6	+209	短期有利子負債	41	0.2	-	-	▲ 41
商品	696	4.2	1,027	5.6	+331	未払法人税等	419	2.5	388	2.1	▲ 30
未収入金	239	1.4	255	1.4	+16	その他流動負債	370	2.2	317	1.7	▲ 52
その他流動資産	115	0.7	123	0.7	+8	固定負債	189	1.1	215	1.2	+25
固定資産	1,729	10.4	2,347	12.8	+618	退職給付引当金	188	1.1	212	1.2	+23
有形固定資産	1,196	7.2	1,172	6.4	▲ 24	その他固定負債	1	0.0	1	0.0	-
無形固定資産	122	0.7	229	1.2	+106	負債合計	9,335	56.3	10,489	57.0	+1,153
投資その他資産	409	2.5	946	5.1	+536	純資産合計	7,259	43.7	7,920	43.0	+660
資産合計	16,595	100.0	18,409	100.0	+1,814	負債・純資産合計	16,595	100.0	18,409	100.0	+1,814

商品 +331M
商品の一括購入

投資その他資産 +536M
テスコ株式 476M

仕入債務 +1,253M
商品の一括購入、3月末
銀行休業日

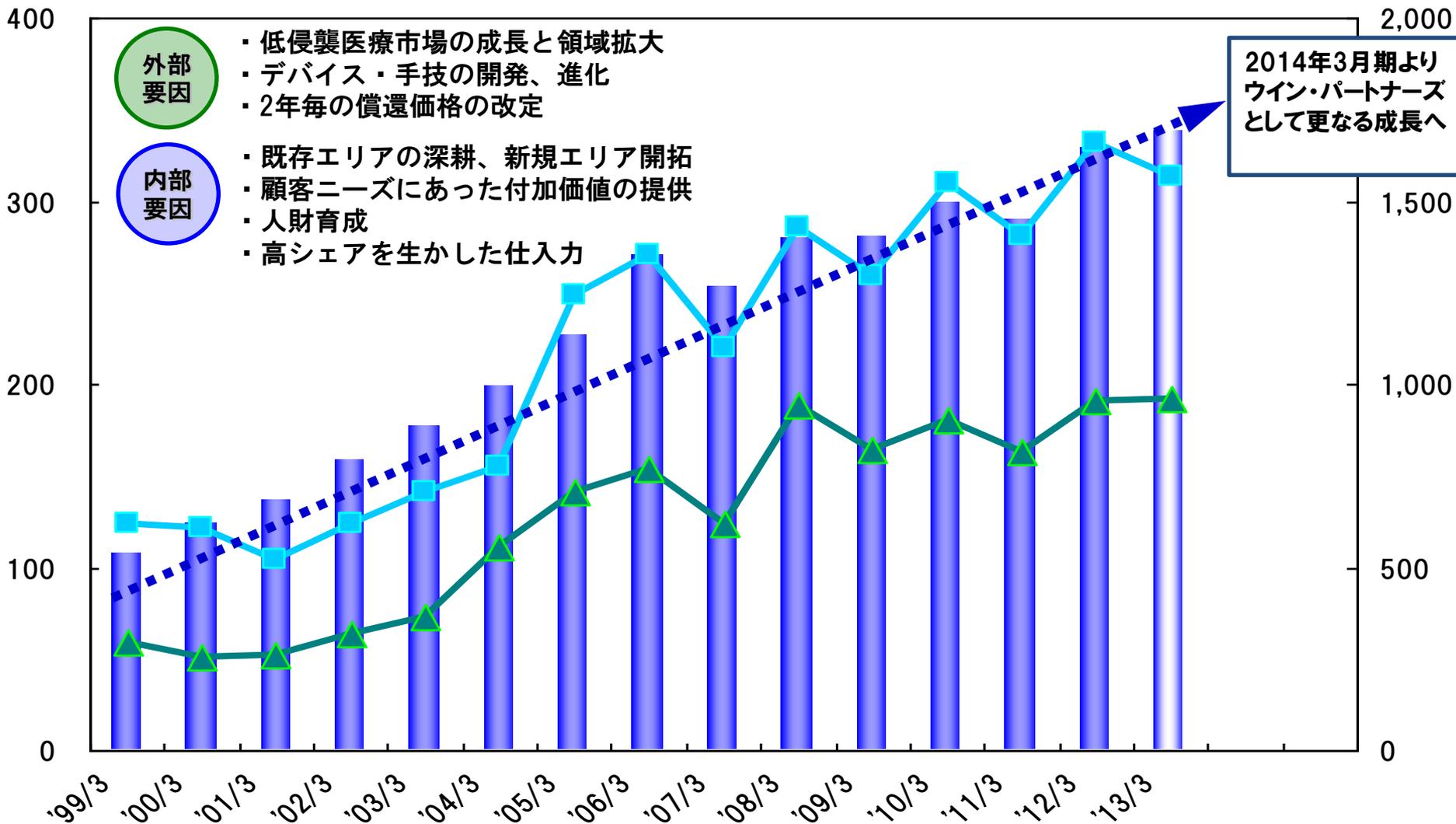
ウイン・インターナショナル：キャッシュフロー計算書



	2012年3月期		2013年3月期	
	金額(百万円)		金額(百万円)	増減額(百万円)
営業キャッシュ・フロー	596		1,737	+1,141
税引前当期純利益	1,657		1,566	▲ 91
減価償却費	181		166	▲ 14
売上債権の増減額(▲は増加)	▲ 1,886		▲ 209	+1,676
たな卸資産の増減額(▲は増加)	81		▲ 325	▲ 406
仕入債務の増減額(▲は減少)	1,079		1,253	+173
法人税等の支払額	▲ 597		▲ 658	▲ 60
投資キャッシュ・フロー	▲ 200		▲ 723	▲ 523
有形固定資産の取得による支出	▲ 141		▲ 127	+13
無形固定資産の取得による支出	▲ 81		▲ 134	▲ 53
関係会社株式の取得による支出	-		▲ 456	▲ 456
財務キャッシュ・フロー	▲ 441		▲ 382	+58
配当金の支払額	▲ 307		▲ 341	▲ 34
現金・現金同等物の増減額(▲は減少)	▲ 45		630	+676
現金・現金同等物の期首残高	4,026		3,980	▲ 45
現金・現金同等物の期末残高	3,980		4,611	+630

ウイン・インターナショナル：通期業績推移

(単位:億円) ■ 売上高(左軸) ■ 経常利益(右軸) ▲ 当期純利益(右軸) (単位:百万円)



3. ウィン・パートナーズ 業績予想

2014年3月期予想

	2013年3月期 (Wインターナショナル実績)		2014年3月期 (Wパートナーズ今期予想)	
	金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)
売上高	33,912	100.0	45,580	100.0
営業利益	1,557	4.6	2,280	5.0
経常利益	1,567	4.6	2,288	5.0
当期純利益	960	2.8	1,597	3.5
1株当たり純利益(円)	78.68	—	111.26	—
1株当たり配当金(円)	29	—	32	—

■ 34%増収、46%増益 (対ウイン・インターナショナル前期比)

- テスコの寄与
- 償還価格の改定なく、症例数増加
- 院内シェアの拡大、心臓以外の診療領域の拡大
- 新規顧客の獲得(前期の人員強化、出張所開設の効果)

■ 粗利益率13.6%

- 一括購入等、スケールメリットによる仕入コストの低減
- MRI対応ペースメーカー等、高付加価値製品の拡大

■ 特別利益3.7億円

- 経営統合に伴う負ののれん1.9億円
- テスコ株式の段階取得(27%)による差益1.8億円

■ 円安の影響は受けない

- 外資系メーカーからの仕入は日本法人経由の円建て

償還価格改定なく、症例数増、新規顧客の拡大を見込む

ウイン・インターナショナル 部門別売上高予想

2014年3月期	百万円	伸長率
虚血性心疾患関連(PCI)	16,500	8%
心臓律動管理関連(CRS)	5,700	17%
心臓血管外科関連(CVS)	3,860	9%
末梢血管疾患関連(PPI)	1,980	9%
脳外科関連	1,070	21%
糖尿病関連(DMS)	600	21%
その他	7,290	3%
合計	37,000	9%

子会社別業績予想

2014年3月期(百万円)	ウイン・インターナショナル	テスコ	連結調整等	連結
売上高	37,000	8,650	▲70	45,580
営業利益	1,738	387	155	2,280

設備投資等の見通し(連結ベース)

設備投資	7億円
減価償却費	2億円
総資産	233億円
純資産	112億円

**業績、経営基盤の強化および将来の事業展開等を
総合的に勘案しながら、安定配当の継続、
配当性向30%以上を目指します**

2014年3月期 配当金予想

期末 32円

配当性向32%

(特別利益を除く実質EPS 99円に基づく)

4. 參考資料

経皮的冠動脈形成術

狭心症など血管が狭まり血流が悪化する疾患(虚血性心疾患)を血管内部から治療する方法

PTCAバルーンカテーテル

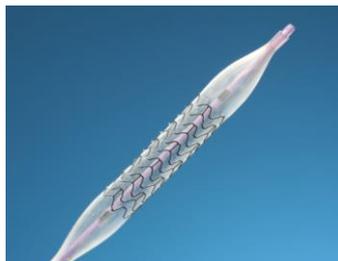


狭窄(血管が狭くなること)箇所
でバルーンを膨らませ、血管を広げ
血流を改善させる。

〔治療イメージ〕

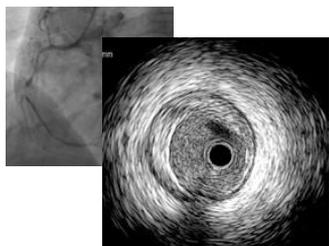


DES(薬剤溶出ステント)



狭窄箇所
で筒状の網目の金属(ステント)を留置し、再狭窄を防ぐ。
ステントに再狭窄を抑制する薬剤が塗布されているものをDESという。
薬は時間をかけて溶出する。

IVUS(血管内超音波診断用カテーテル)



超音波で血管内部を映像化する
診断装置用カテーテル。
PCIの前後に使用する。

(単位:千件)



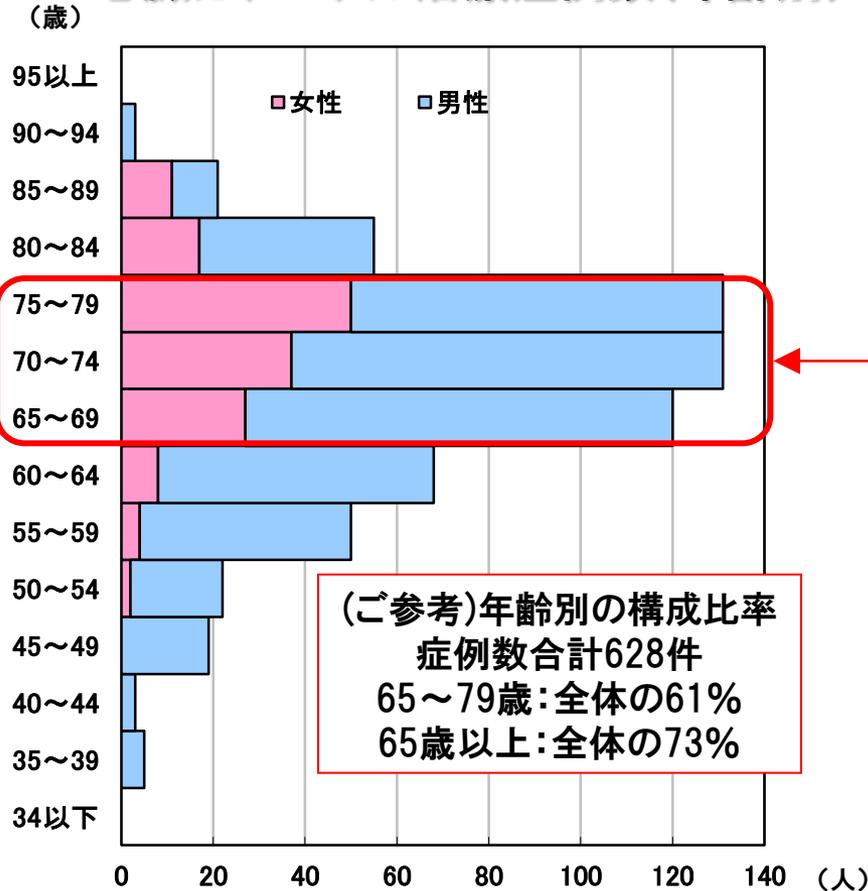
(出典)R&D「医療機器・用品年鑑2012年版」

PCI市場～高齢化が追い風

① PCIの中心患者は65歳～79歳

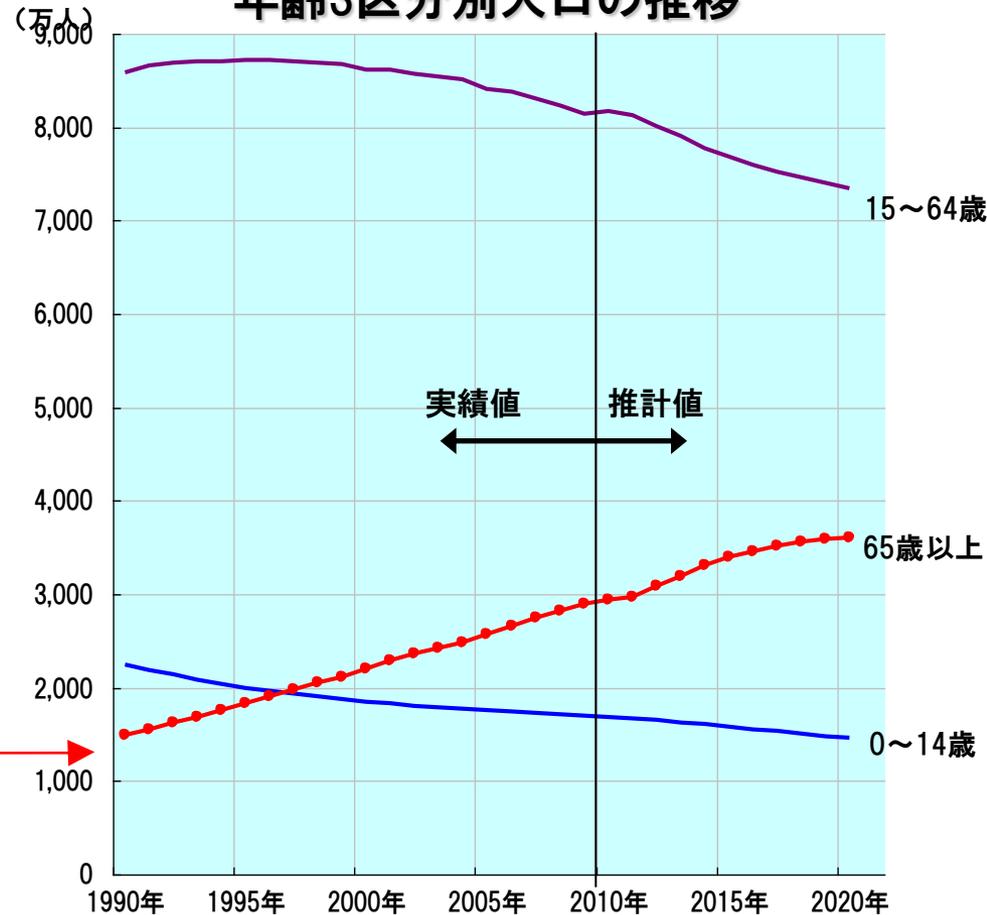
② 中心患者(65歳～79歳)人口が増加

心臓カテーテル治療症例数(年齢別)



(出典)当社取引先の3ヶ月間の年齢別症例数(2010年調査)

年齢3区分別人口の推移



(出典)国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成24年1月推計)

高齢者人口が飛躍的に増加する首都圏

■2025年までの高齢者人口の動向

【首都圏の高齢者人口】《2010年》912万人 → 《2025年》1,182万人…約270万人増加（図1）。

【高齢者人口増加率】指標:2010年を100 → 2025年《全国》124.0 < 《首都圏》129.7（図2）。

図1 高齢者の将来推計人口（実数）

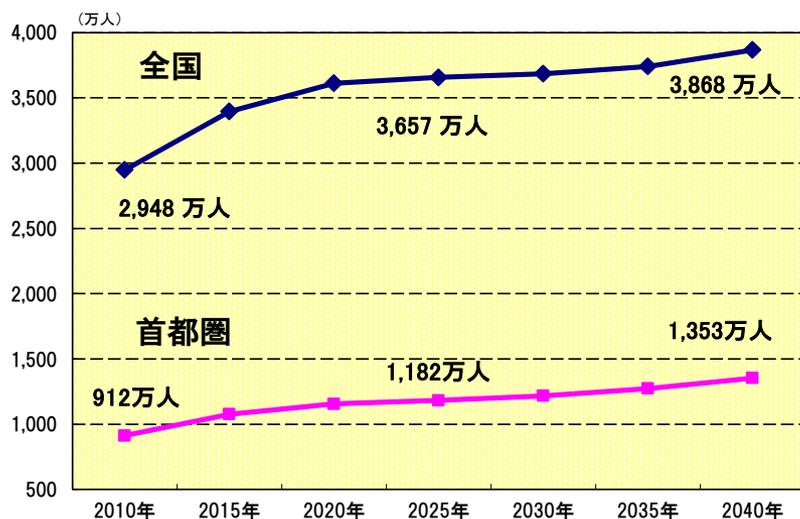
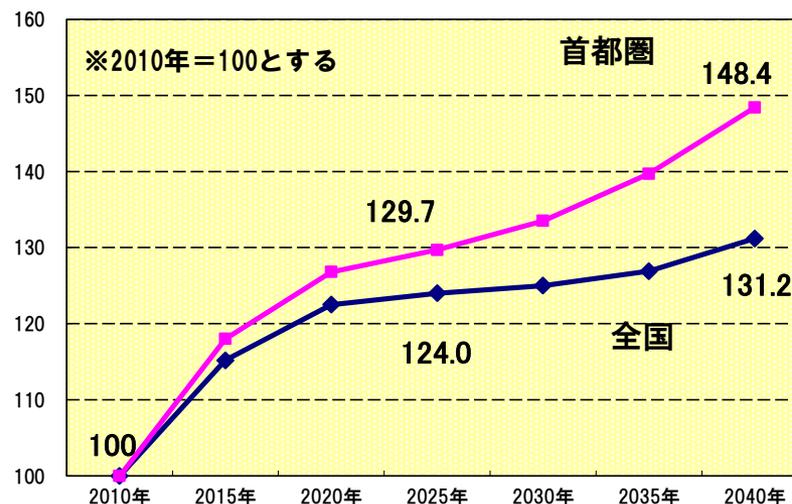


図2 高齢者の将来推計人口の指標



（出典）国立社会保障・人口問題研究所 「日本の地域別将来推計人口」（平成25年3月推計）

ペースメーカー・ICD・CRTD移植術

心筋に電気刺激を与える医療機器を体内に埋め込み、心臓に異常拍動が生じた際には電気刺激を与え、症状を抑える治療法

ペースメーカー



心臓の鼓動が途切れたことを検知すると、電気的刺激を心臓に送り、正常なリズムで鼓動させる

ICD (植込型除細動器)



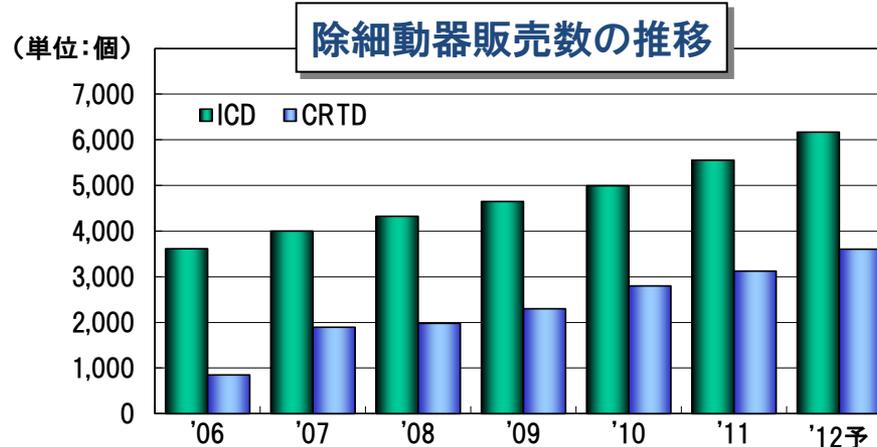
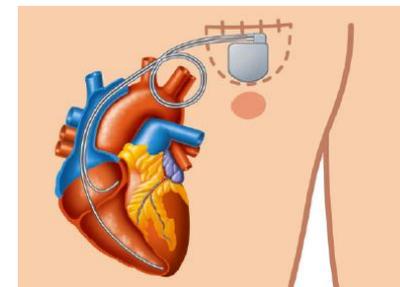
ペースメーカー機能に加えて、命に関わる症状が出た場合には、電気ショックで発作を止める機能がある

CRTD (両室ペーシング機能付き植込型除細動器)



ペースメーカー機能、ICD機能に加えて、心不全を治療する機能がある

〔治療イメージ〕

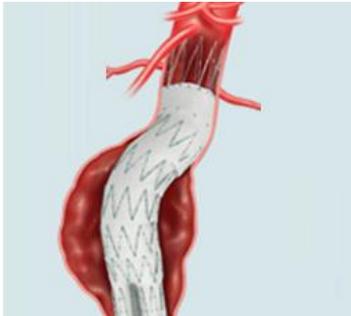


(出典)R&D「医療機器・用品年鑑2012年版」

ステントグラフト内挿術

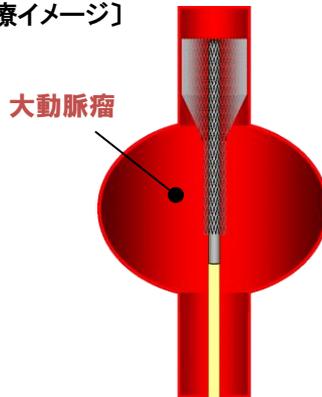
・大動脈瘤(腹部や胸部大動脈が瘤のように膨らみ、破裂すると死に至る危険がある疾患)を血管内部から治療する方法。

ステントグラフト

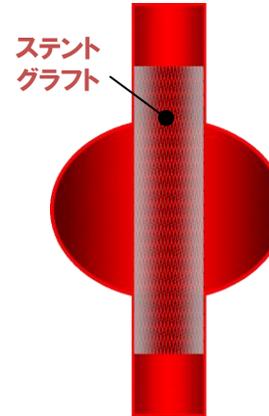


筒状の金属(ステント)がついた人工血管(=ステントグラフト)を患部で広げ、瘤内部への血流を遮断し、動脈瘤の拡大を防ぎ、破裂の危険性を低下させる。

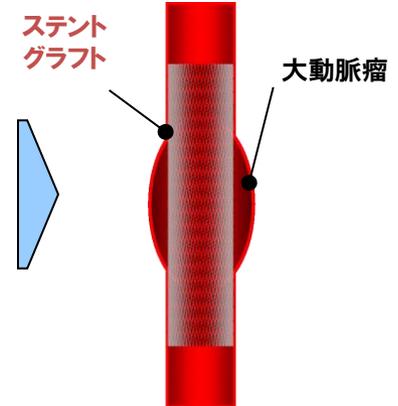
[治療イメージ]



ステントグラフトをカテーテルで患部まで運ぶ。



患部でステントグラフトを広げる。

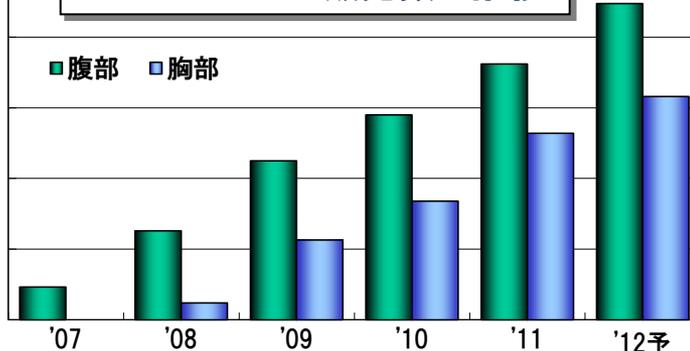


瘤への血液の流れが遮断され、瘤が縮小する。

* 縮小しない場合でも破裂の危険性は低下

(単位:個)
10,000
8,000
6,000
4,000
2,000
0

ステントグラフト販売数の推移



(出典)R&D「医療機器・用品年鑑2012年版」

従来の治療法は、外科手術(開胸/開腹手術)が一般的だったが、最近では **低侵襲治療法であるステントグラフト内挿術**が普及し始めている。

【参考】

米国の人工血管置換術の内訳(2006年)
外科手術:ステントグラフト手術 = 4:6

画期的なインスリンポンプ療法の普及推進

- ・インスリンを持続的に注入するコンピュータ制御の小型医療機器による糖尿病の治療法
 - ・患者の負担軽減によるQOL(生活の質)の改善が可能
 - ・欧米では普及しているが、日本国内では普及が遅れている
- * 現在、国内で一般的な治療法は インスリン自己注射療法

インスリンポンプ

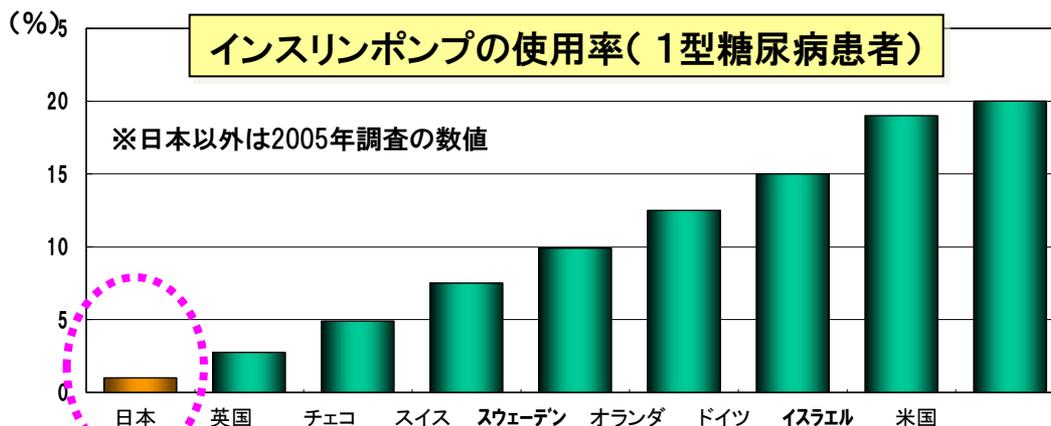


血糖値変動の測定データをもとに
インスリンの持続注入を行う。

【糖尿病患者は2,210万人】

- ・糖尿病患者は全国に2,210万人と推定 (参考:「国民健康・栄養調査(平成19年)」)
→糖尿病が「強く疑われる人」890万人、「可能性を否定できない人」の1,320万人

【競合製品の参入により、今期は更なる市場拡大が期待できる】



(出典) Novo Nordisk Pharma Ltd. Online DITN 第386号(2010年)により当社作成

- ・日本のインスリンポンプ普及率は1%未満と推定。
- ・日本は欧米の5年前の普及率と比べても極めて低い。

経皮的末梢血管形成術

腹部動脈以下の下肢動脈や、頸動脈、腎動脈、上肢動脈などの血管が狭まり血流が悪化する疾患を血管内部から治療する方法。

*PCIと比べ、マーケット規模は小さかったが、製品開発が活発化し、対象症例も増えたことから拡大が見込まれている。

→ 医療施設、医師への営業活動を強化

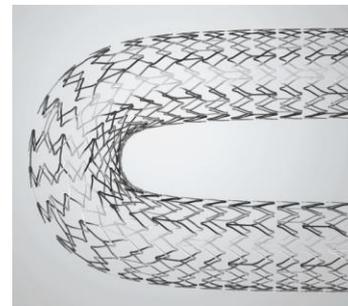
診療報酬改定（手技料増額）

→医療施設の収益向上に寄与し、
新規投資、症例開始、症例数増加

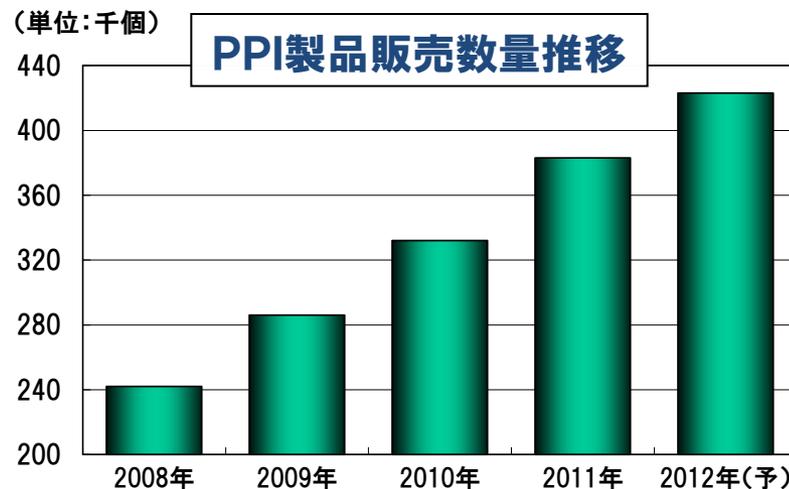
末梢ステント再狭窄抑制型(DES)が保険適用

→効果的な低侵襲治療方法・デバイスが増加し、
市場全体が拡大

末梢ステント



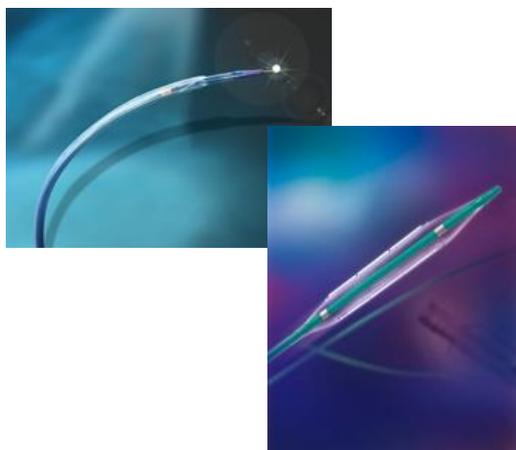
太ももの動脈が詰まる「末梢動脈疾患」を治療する筒状の網目の金属(ステント)。ステントに再狭窄を抑制する薬剤が塗布されているものをDESという。



(出典)R&D「医療機器・用品年鑑2012年版」

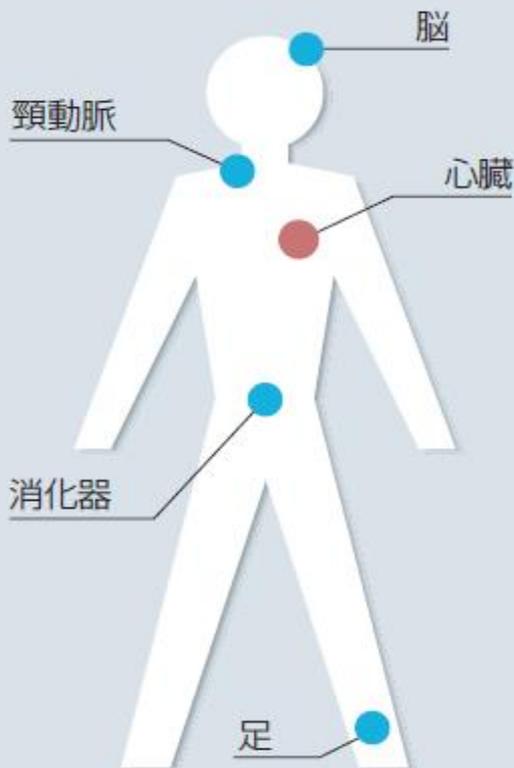
“低侵襲治療”を心臓以外へ拡大 (下肢・頭頸部・腹部領域)

PTAカテーテル・マイクロカテーテル



© 2005 Boston Scientific Corporation or its affiliates. All rights reserved.

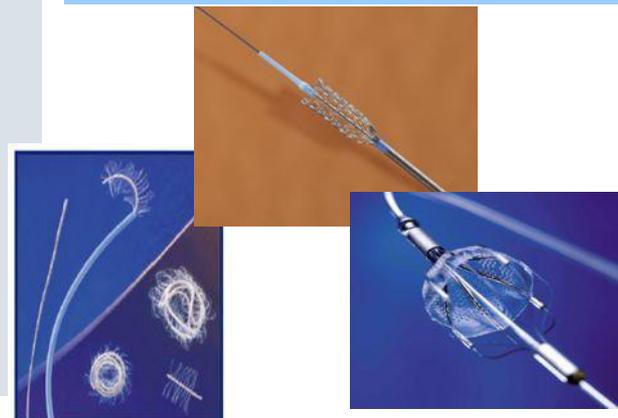
循環器領域から他科への広がり



RFAジェネレータ／ハンドピース



塞栓コイル／CAS(頸動脈ステント)



WIN A BETTER QUALITY OF LIFE すべての人にベター・クオリティ・オブ・ライフ

この資料は投資家の参考に資するため、ウイン・パートナーズ株式会社(以下、当社)の現状をご理解いただくことを目的として当社が作成したものです。

当資料に記載された内容は、2013年5月13日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。投資を行う際は、投資家ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

本資料に関するお問合せ先



ウイン・パートナーズ株式会社

総務部 IR

TEL: 03-6895-1234 FAX: 03-5688-0891

HP: <http://www.win-partners.co.jp>